15　　かぐや姫の抵抗　　　　　　　敬語①　最高敬語・絶対敬語・自尊敬語

帝、にはかⅠに日を定めて御狩りに出で給うて、かぐや姫の家に入りＡ給うて、見給ふに、光満ちて清らにてゐたる人あり。これならむとＢ思して、逃げて入る袖をとらへ給へば、面をふたぎてＣ候へど、初めよくＤ御覧じつれば、類なくめでたくおぼえさせ給ひて、「許さアじとす」とて、率ておはしまさむとするに、かぐや姫答へて奏す。「おのが身は、この国に生まれてＥ侍らばこそ使ひ給はめ、いと率ておはしましがたくや侍らむ」と奏す。帝、「などかさあらイむ。なほ率ておはしまさウむ」とて、御輿を寄せ給ふⅡに、このかぐや姫、きと影になりぬ。はかなく口惜しと思して、げにただ人Ⅲにはあらざりけりと思して、「さらば、御供には率て行かじ。元の御かたちとなり給ひエね。それを見てだに帰りなむ」と仰せらるれば、かぐや姫、元のかたちⅣになりぬ。

【本文チェック】

①　ア～エの助動詞の、文法的意味・文中での活用形を〔　〕に書きなさい。

ア〔　　　　　・　　　　形〕　イ〔　　　　　・　　　　形〕

ウ〔　　　　　・　　　　形〕　エ〔　　　　　・　　　　形〕

②Ⅰ～Ⅳの「に」は、ａ動詞の一部・ｂ形容動詞の一部・ｃ格助詞・ｄ接続助詞・ｅ助動詞のどれか。それぞれ【　】に記号で書きなさい。

Ⅰ【　　　】　Ⅱ【　　　】　Ⅲ【　　　】　Ⅳ【　　　】

③傍線部Ａ～Ｅの動詞は、Ｓ尊敬語・Ｋ謙譲語・Ｔ丁寧語のどれか。それぞれ（　）に記号で書きなさい。

Ａ（　　　）　Ｂ（　　　）　Ｃ（　　　）　Ｄ（　　　）　Ｅ（　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　めでたし〔３〕　（　　　　　　　　）

２　ただ人〔７〕　　　 ①（　　　　　）

②普通の貴族

③普通の人

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　、日の影にしたがひてくこそ草木といふべくもあらぬ心なれ。（枕草子）

ア　方向　　イ　影

ウ　光　　　エ　明るさ

（　　　）

２　人々の、花、やとめづるこそ、はかなくあやしけれ。（堤中納言物語）

ア　つまらなく　　イ　平凡で

ウ　幼く　　　　　エ　情けなく

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の敬意の対象は、ア天皇、イ中宮のいずれかを答えよ。

１　たしかに、まこと、そらごとを見て、ありのままに奏せよ。（十訓抄）

２　内も行幸などさせたまひて、よろづに思し惑はせたまふ。（栄花物語）

３　御前に参りて、ありつるやう啓すれば、（枕草子）

１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）

問４　次の傍線部の説明として適当なものを、後から選べ。また、２・３の傍線部を現代語訳せよ。

１　（帝が）「この女もし奉りたるものならば、にをなどか賜はせざらむ」

（竹取物語）

２　かぐや姫をえ戦ひめずなりぬること、こまごまと奏す。（竹取物語）

３　いとこまやかにありさま問はせたまふ。（源氏物語）

ア　絶対敬語　　イ　自敬表現（自尊敬語）

ウ　最高敬語（二重尊敬）

説明　１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）

現代語訳　２（　　　　　　　　　　　　　）

３（　　　　　　　　　　　　　）

問５　次の語は、誰の外出を指すか。適当なものを後から選べ。

１　行啓

２　御幸

ア　天皇　　　イ　皇后　　ウ　女院

エ　皇太子　　オ　上皇　　カ　法皇

１（　　　・　　　）　　２（　　　・　　　・　　　）

【古典常識】

問６　『竹取物語』と成立年代の最も近い作品を、次から一つ選べ。

ア　『狭衣物語』　　イ　『栄花物語』　　ウ　『源氏物語』

エ　『土佐日記』　　オ　『更級日記』

（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝打消意志・終止　イ＝推量・連体

　　ウ＝意志・終止　　　エ＝完了・命令

②　Ⅰ＝ｂ　Ⅱ＝ｄ　Ⅲ＝ｅ　Ⅳ＝ｃ

③　Ａ＝Ｓ　Ｂ＝Ｓ　Ｃ＝Ｔ　Ｄ＝Ｓ　Ｅ＝Ｔ

問１　１＝すばらしい　２＝臣下

問２　１＝ウ　２＝ア

問３　１＝ア　２＝ア　３＝イ

問４　説明　１＝イ　２＝ア　３＝ウ

　　　現代語訳　２＝天皇に申し上げる　３＝お尋ねになる

問５　１＝イ・エ　２＝ウ・オ・カ

問６　エ

【現代語訳・参考】

問２　１　唐葵（という花）は、日の光にしたがって傾くのが草木では言い表しようのない（ほどすばらしい）心である。

２　人々が、花よ、蝶よと賞賛するのこそ、つまらなくて奇妙なことだ。

問３　１　しっかりと、真実か、噓かを見て、ありのままに帝に申し上げよ。

２　帝も行幸などあそばして、あれこれと途方に暮れておいでになる。

３　（中宮の）御前に参上して、（私が）先ほどの様子を中宮に申し上げると、

問４　１　（帝が）「この女をもし（私＝帝に）差し上げるならば、翁に（ほうびとして）冠を（私＝帝が）どうしてくださらないことがあろうか」

２　（中将は）かぐや姫（の昇天）を戦って止めることができなくなったことを、

こまごまと天皇に申し上げる。

３　（帝は）たいそうこまごまと様子をお尋ねになる。

問６　『竹取物語』は平安時代前期の成立。ア『狭衣物語』は平安時代中期、イ『栄花物語』は平安時代後期、ウ『源氏物語』は平安時代中期、オ『更級日記』は平安時代中期に成立した。